

「光のふしぎ」を考える楽しさを、小学生に届けたい —京都府南丹市立園部小学校への出前授業—

■実施日 2011年2月24日(木) ■対象 京都府南丹市立園部小学校6年生(80名) ■報告者 竹内繁樹(北海道大学/大阪大学)

今回のお話は、ポラリス・セクレタリーズ・オフィスの笹部昌子様から頂きました。笹部様は、小中学校の児童・生徒が、第一線の研究者とふれあい、理科への興味を育むことが大切と考え、研究者と小中学校をつなぐ「理科教育コミュニケーター」を提案されています。その一環として、京都教育大の村上忠幸先生、京都府南丹市立園部小学校の新田早苗先生との連携授業を打診頂きました。メディアアーティストの岩井俊雄氏(子供が大ファン)の小学校出前授業の番組に感銘を受けていたため、喜んでお引き受けしました。

「思い切り楽しんでほしい。」その想いから、午前中2から4限目は6年生の3クラス(計80名)それぞれで、偏光フィルムを使って見つけた様々な「ふしぎ」な現象の発表や、また、「不思議なカベ」などのおもちゃも作ってもらいました。午後は全クラスの児童を対象に、ふしぎのなぞ解きを実験やコントを交えて行った後、浜松ホトニクスのご厚意でお貸し頂いたビデオを元に、光の粒子性や量子コンピュータなどについて話しました。

授業を始めるまでは、小学生に楽しんでもらえるのが正直不安でしたが、偏光フィルムを目の前にかざして歓声をあげる子供達をみて嬉しかったです。午後の講演での、ドッキリするよう

な質問や、また終了後の、持ち込んだ実験装置に群がる子供達に、授業をやって良かったとおもいました。アンケートでも、87.5%が「楽しかった」、98.7%が「よく/大体わかった」、70%が「もっと理科に興味がわいた」という結果でした。小学校としては、子供たちが将来の職業を考えるきっかけとしても重視しているとのことでした。

最後に新田先生はじめ園部小学校の先生方、村上先生および京都教育大の院生の皆様、笹部様、北大の笹木敬司教授のご協力に感謝いたします。また、当日補佐してくれた岡野博士研究員はじめ、準備にあたってくれた研究室諸氏にも感謝します。

